

税金を通して支え合う

三山 麻彩

皆さんは、税金について、どのくらい知っていますか。また、どのようなイメージを持っていますか。多くの方は「自分たちが今生活していく上で欠かせないもの」というイメージを持っているのではないのでしょうか。

もちろん、私たちが「今の」生活をしていく上で、税金は絶対に欠かせないものです。公立学校の施設建設、道路や信号等々、私たちの身の回りには、税金に支えられているものが数え切れない程たくさんあります。

ですが、税金の役割はそれだけではありません。税金に支えられている大切な制度の一つとして、「社会保障制度」があげられます。この制度は、福祉や医療の他にも、年金や介護など、「今」だけでなく「将来」の生活にも大きく関わってくる大切な制度です。

しかし、この社会保障制度は今、大きな課題を抱えています。日本の少子高齢化が進んだことによって、働き手の年金や医療・介護における税金負担が大きくなってしまっているのです。現役世代のように働けない高齢者にとって、年金などの社会保障は必要不可欠です。ただ、このままでは現役世代の負担がどんどん増していってしまいます。かといって、いきなり国の人口をコントロールすることは難しいですね。

ですから、せめて税金は「支える」ものだという意識を持つと良いと私は思います。社会保障においての税金について言うならば、自分が払っている税金は、どこかで誰かを必ず「支えて」いる。また、将来自分が年をとったり、病気になったりしたときは、自分や他の誰かの税金に「支えられて」生活していくことになる。こうした、犠牲の意識を持たないようにすることが、少しでも社会を良い方向へと運んでくれるのではないかと私は考えます。

そして、この「支える」というフレーズは、社会保障のことに限った話ではありません。最初にお話ししたように、今の私たちの身の回りにも、税金によって「支えられて」いるものがたくさんあります。私たちはそれらを、税金を払うことによって「支えて」いる。こうした意識が、とても大切だと思います。

繰り返しにはなりますが、「払わなければならない」という犠牲の意識ではなく、払うことによって、社会全体で「支え合っている」という肯定の意識。その意識を、この日本の国民一人一人が持つようになれば、社会全体が少しずつでも良い方向へと向かっていくと私は信じています。